

医療・介護 最前線

要介護高齢者の在宅生活を24時間体制で支える、定期巡回・随時対応型訪問介護看護。制度ができた2012年から先駆者としてサービスを提供してきたのが、医療法人・幸晴会グループの「在宅サポートセンター中谷」(大阪府八尾市)だ。全国的に普及が遅れるなか、試行錯誤を繰り返しながら効率運営のノウハウを蓄積してきた。

「××さん、そろそろトイレに行きましようか」。

「エンハーツ」など新型抗がん剤の研究開発を加速している

兆円
1.1
1.0
0

000億円に引き上げる。

「える開発方針は変えず、自社一けられる

軽度な介護 定期巡回で



定期巡回・随時対応の利用者は100人を超す (大阪府八尾市)

ヘルパーが声をかけると、高齢の女性はゆっくりとベッドから立ち上がった。女子が「融通がきく」

女性には軽い認知症で排せつが難しい。同住家族は仕事で昼間は居ない。そのためヘルパーが午前と午後の1回ずつ、決まった時刻に訪問。わずか10分ほどだが、女性と家族にとって欠かせないサービスとなっている。

通常の訪問介護は1回の訪問が20分以上の手厚いサービスでないと介護報酬の算定ができず、1日1回未満の利用が多い。それに対し定期巡回・随時対応は介護保険の範囲内で定額を払えば、水分補給など軽度の訪問サービスを必要に応じて受けられる。「融通がきく」

「女性には軽い認知症で排せつが難しい。同住家族は仕事で昼間は居ない。そのためヘルパーが午前と午後の1回ずつ、決まった時刻に訪問。わずか10分ほどだが、女性と家族にとって欠かせないサービスとなっている。」

「定期巡回・随時対応の利用者は100人を超す。現在は老人ホームに入れない人、自宅で暮らしたい人を中心に在宅サポートのニーズは一段と高まるはず(福森理事)。ただ人手不足の影響で、ヘルパーの確保は難しい。十分に報いるため、国の介護報酬引き上げも必要になりそうだ。」

「ため、介護度が低い人でも利用しやすい」と福森千恵ミ・幸晴会理事は話す。当初は利用者が求める訪問回数にすべて応えようと赤字に。そこで改めて利用者との話し合い、それぞれ本当に必要な訪問に絞り込んだ。訪問時刻も近所に住む他の利用者ができるだけそろえて、効率的な巡回ルートを組めるようにした。

「定期巡回・随時対応のもう一つの特徴が、利用者が手元の緊急ボタンを押すとヘルパーが駆けつけるサービスだ。利用者にとって安心な半面、ヘルパーが深夜に何度も呼ばれて疲弊する懸念があった。だが、たとえ就寝前に定期巡回を入れてトイレに行かせるよう(東大阪支局長 高橋圭介)